発行　平成１２年６月
研究レポート No.111　岩手県農業研究センター

水田除草剤ジャンボ剤（パック）による水田雑草の防除法

平成１２年度から水田除草剤として県基準に採用されたジャンボ剤（「クサトリエースＨジャンボ」、「クリンチャージャンボ」）は、これまでの１キロ粒剤よりも散布作業が容易であり、さらにフロアブル剤等よりも散布の作業負担が軽い。
これらの除草剤（ジャンボ剤）の使用方法について紹介する。

表１　新除草剤一覧

除　草　剤　名	圃場短辺の長さ			
	～30m	～40m	～80m	80m以上
ジャンボ剤	◎	□	△	△
クラッシュ１キロ粒剤（手散布処理）	◎	◎	□	△
フロアブル剤（レトリーフロアブル、シーゼットフロアブルを除く）	◎	□	△	△

注）◎：畦畔からの散布が可能、□：圃場内散布が必要、
△：圃場内散布が必要であり、圃場内歩行が長距離となる。
（クラッシュ１キロ粒剤は拡散性に特に優れる性質を持つ粒剤）

写真１　ジャンボ剤

【ジャンボ剤の形状】
写真左：クサトリエースＨジャンボ
写真右：クリンチャージャンボ
ジャンボ剤のパックの大きさは重量に関わりなく、パックの大きさはほぼ同一である。

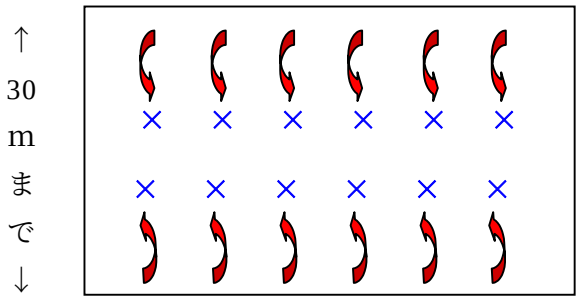

図１　ジャンボ剤の散布例

【処理方法】
1．短辺が 30m以下の圃場の場合、上図のように畦畔から投げ入れる。
2．圃場が不整形な場合は、圃場面積にあわせたパック数を均等に投げ入れる。

ジャンボ剤散布のメリット

フロアブル剤は、通常 10ａ当たり 500ml のボトルを約 25 回程度（20ml／１振り散布とした場合）振って散布するが、ジャンボ剤の場合では、10ａ当たり 30～50ｇのパックを 10～20 個投げ入れることとなり、散布時の作業性に優れている。

担当研究室　農産部　水田作研究室
〒024-0003　北上市成田２０－１　TEL．0197-68-4412　FAX．0197-71-1081